「北欧研修」体験記

私は、以前から高齢者医療や地域医療に興味があり、今回の北欧研修に参加しました。

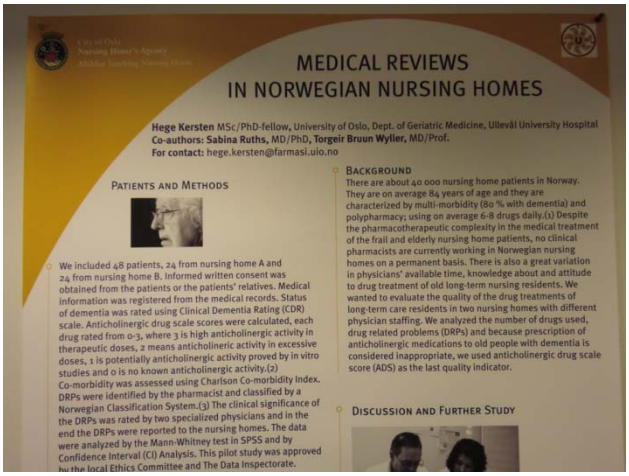
先の薬学実務実習にて、高齢者向け施設での薬剤管理に薬剤師が積極的にかかわっていることや、在宅医療でも重要な役割を担っていることを学びました。日本において介護現場への薬剤師の関与が増えつつある中、福祉先進国と言われる北欧諸国ではどのような社会制度の下、介護業務が行われているのか、またそこに薬剤師はどう関わっているのか。実際に自分の目で見てみたいと思いました。

ノルウェーとフィンランドで共通して、介護の現場に薬剤師の関与がほとんどない事が分かりました。施設での薬の管理は、薬について教育を受けた看護師が行っているようです。看護師の職能や社会的地位が日本に比べて高いという印象を受けました。薬剤師は薬局で医師の処方指示に基づいた薬の調剤、一般薬の販売、また製薬会社での研究などを行っています。個人のお宅に出向いたり、施設に薬を配達して服薬指導したりということはあまり行われていないようです。ノルウェーのナーシングホームでは、その施設に関わりのあった薬剤師の方が「施設での長期に渡る高齢者への薬物治療について、もっと臨床薬剤師の介入が必要である」という趣旨の論文を発表したと教えて頂き、掲示されていた概要を拝見しました。今は薬剤師の関与は少ないようですが、今後福祉や看護の領域においても薬剤師の役割が重要になっていくのだろうと思いました

JIU の姉妹校である北カレリア大学の学生との交流は、お互いの国の文化を知る意味でとても有意義でした。フィンランドの素晴らしい自然の中でのノルディックウォーキングを行い、軽く汗をかいた後に皆で入ったサウナはとても気持ちが良かったです。

（ノルディックウォーキングとは、フィンランド発の２本のストックを使ったウォーキング法の１つです。年齢性別を問わずに楽しめ、足だけでなく肩や腕などを使い全身の運動になります。また膝や腰の負担が減るという研究結果もあり、リハビリにも適しています。実際に公園で歩いている人をしばし見掛けました。）

今回の研修では、普段話す機会の無い、福祉学部の学生や大学院生の方とこれからの日本の福祉について拙いながらも討論することが出来たのはとても勉強になりました。今回学んできた事の良い部分は日本にも取り入れ、逆に日本の良い部分はもっと世界にアピールして行かなければと思いました。



「ナーシングホームに臨床薬剤師は必要だ」

ヘルシンキの薬局にて

北カレリア大学の学生とノルディックウォーキング

高齢者施設の看護師による薬物管理